

## 総会参加200名をめざして

同窓会会長 久保 憲司

平成28年の新春に当たり、年頭の御挨拶を申し上げます。大学の法人化とコモンズ制導入という新たな体制のもとで、「奈良を通じて世界で活躍できる人材を育てる」という建学の精神がうち立てられ、2年が経過致しました。この間、キャンパス整備計画では「地域交流棟」が第一番に建設され、まさに「地域に根差しした大学」としての取り組みが、具体的に進められています。一方、同窓会では平成25年に3ヶ年計画を策定し、同窓生相互の親睦を図る「ホームカミングデイ」をはじめとし、地域ボランティアや在学生との対話交流活動を通じて、「同窓会」の認知度と帰属意識の向上を目指して活動して参りました。また、こうした活動の状況を本誌で定期的に報告し、同窓会活動に新たな関心を寄せていただくとともに、会員名簿の更新も図って参りました。



とりわけ、本年は定期総会開催の年度にあたり、10月初旬の実施を予定致しておりますが、毎回約100名程度の参加者に止まり、比率的には、連絡先が把握できている会員の3%程度に過ぎません。こうした状況を踏まえ、本年は卒業期毎の担当者を選任いただき同窓会事務局からのお知らせに加えて、同年代の会員相互のつながりを深めることにより、「200名出席」を是非達成したいと考えております。そのためには、本誌「ふなはし」や「同窓会ホームページ」の会員相互に情報交換できる欄を活用していただき、より多くの会員に登場いただく場所を提供して参りたいと考えております。

また、平成15年に私が会長職を拝命致しまして以来、常に懸案となっております「役員体制の充実と裾野の拡大」について、本年総会を機に、なんとか解決を図って参りたいと考えておりますので、皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。昨年も触れましたが、同窓会活動が犠牲的なボランティア精神にのみ立脚しているのではなく、活動自体に面白味と満足感があるものにするために、知恵を搾って参りたいと考えております。

最後に、会員各位のご多幸をご祈念申し上げ、同窓会を代表しての御挨拶とさせていただきます。

## 同期会 やってます！

～同期会ゼミ会活動報告～

短期大学部28期生 阿部 明子さん

平成27年11月8日（日）28期生の同期会を開催しました。平成24年ごろから年一度ぐらいの不定期に開催しています。今回、奈良県立大学「秋華祭」の開催日に合わせ懐かしい学び舎を訪れて、その後に同期会をするという流れで企画しました。あいにくの雨にもかかわらず7名が「秋華祭」に参加しました。

現役学生の若いパワーがまぶしく、「30年余り前は、私達もこうだった！あそこで、ここで、あんなこと、こんなことやったよねえ」と、思い出話が飛び出してきました。校舎の風情にも、懐かしい学び舎と、発展してゆく奈良県立大学の校舎が混在し、時代の流れと年月を感じました。

そして、7名は校門を抜け、奈良県立大学を背に

近鉄奈良駅近くの同期会会場に向かい、同期会からの参加者7名と合流してお鍋パーティーで盛り上がりました。

この参加により奈良県立大学が身近になりました。常に同期会を合わす事は出来ませんが、「秋華祭」の開催日を同期の皆様へ発信し、参加していただける様、働きかけていきたいと思っています。



平成27年4月より本学は公立大学法人奈良県立大学となりました。今後の大学運営は、法人設立に先立ち、平成26年12月に定められた中期目標の達成に向けて取り組んでいきます。この中期目標は、設置者である奈良県が公立大学法人となった本学に求める具体的な成果目標です。中期目標は、Ⅰ. 教育、Ⅱ. 研究、Ⅲ. 地域貢献、Ⅳ. 国際交流、Ⅴ. 法人経営の5つの項目で構成されており、平成27年4月1日～平成33年3月31日までの6年間について中期計画を策定し、成果目標の達成を実現します。以下、その内容を紹介することで本学の将来展望を示します。

Ⅰ. 教育では、まず①「教育内容の充実」として、対話型少人数教育（学習コモンズシステム）の導入・充実があげられます。学習コモンズシステムは、平成26年4月よりすでに導入済みであり、自主的に学び成長する精神を身につけた地域に貢献できる優れた人材の育成を目指します。次に、フィールドワークを通じた実践型教育の導入・充実により、実践的な課題発見・解決能力を身につけた人材の育成を目指します。リベラルアーツ教育の充実により、社会人として必要不可欠な幅広い教養、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけた人材の育成を目指します。今後、リベラルアーツ科目の増加や、学外の著名な有識者・実務者等を外部講師として招聘し、学生の想像力・モチベーションを高めます。また、海外留学や語学力を活用した就職など国際社会で活躍できる人材の育成を目指して、高度な語学教育の提供を行います。



②「学生への支援」として、意欲ある学生を確保するために、優秀な成績を修めた学生に対する給付型奨学金制度を、平成27年度より導入しました。ファкультイ・デベロップメント（FD）に取り組み、教育の質の向上を図り、学生の授業に対する満足度の向上、教育内容のレベルアップを目指します。また、学生のキャリアサポートを充実し、高い就職率の維持、卒業後も含めた就職支援体制の確立を目指します。学生生活に関しては、サポートを充実し、学生の利便性を向上させるとともに、留年者及び中退者の減少を目指します。

③「教育を支える施設整備」として、学生の学習意欲及び教育効果の向上を図るキャンパス整備を行います。すでに策定されたキャンパス整備基本構想に基づいて、今後数年を掛けて整備を進めていきます。

Ⅱ. 研究では、社会のニーズに対応した研究活動を通じて、広く社会に貢献するため、研究成果の適切な評価を行うとともに、研究成果を社会に発表し、社会の問題解決を目指します。かつてシルクロードの終着点であった奈良にある大学として、奈良とユーラシアに関する研究活動を推進し、その研究成果を広く県民に還元することを目指して平成27年10月、本学にユーラシア研究センターを設置しました。また平成28年度より、本学の事業として、アジアの学生を招聘して行う東アジアサマースクールを実施します。

Ⅲ. 地域貢献では、社会のニーズに応じた幅広い知識と実践力を持つ優れた人材を育成するため、キャリア教育やリカレント教育に取り組みます。また、県内外で就職した学生が本学で学んだことを生かして、奈良の魅力を全国に発信するためのネットワークづくりに取り組みます。地域の大学や高等学校との連携を通じて、大学の使命である地域づくりへの貢献を目指します。公開講座、シニアカレッジの実施等、大学の資源を活用することにより、広く県民に生涯学習の機会を提供します。社会人に大学での学び直しの機会を提供し、最新の研究成果を社会で役立ててもらおうためのフレックス（夜間）コースも検討していきます。その他の地域貢献に関する取り組みには、研究成果をデータベース化し、地域で役立つ知恵と情報を発信するための地域創造データベースの構築、大学と地域の協働による課題解決型プロジェクトの推進、地域交流のできる施設の整備及び県民への開放等があげられます。

Ⅳ. 国際交流では、留学生の受入・派遣による学生の国際交流、海外大学との教育・学術研究交流の充実に取り組みます。現在、アメリカ、カナダ、オーストラリア、中国、韓国、台湾、インドネシア、ベトナム等の大学と交流協定を締結し、中国と台湾の大学とは学生の派遣、受入を行っています。

Ⅴ. 法人経営では、ガバナンス体制を充実強化し、理事長と学長がリーダーシップを発揮し、効率的な法人経営に取り組みます。卒業生や保護者の大学への理解を深め、協力を得るため、同窓会や後援会との連携を図ります。公立大学法人として、コンプライアンスの確保、危機管理体制の整備、収入の確保・経費節減・業務の効率化による健全な財務の構築と維持、自己点検評価・法人情報の公開を通じた県民に信頼される法人経営、情報発信体制の強化による大学の認知度及びブランドイメージの向上に取り組みます。

平成27年10月4日の日曜日に、第4回ホームカミングデイが同窓会主催で行われました。当日はお天気に恵まれ、講演会の会場は、新しく建てられた「地域交流棟」2階の中研修室を初めて使用させて頂きました。参加者は来賓4名（講演者2名含む）、卒業生57名（短大28名、商大12名、県大9名、役員8名）、在学生8名の総勢69名で、回を重ねるごとに少しずつ増えてきました。

11時から、3回生の東山さんの司会で、講演会が始まりました。まず、久保会長から「5年前にスタートしたホームカミングデイは、総会・60周年記念祝賀会をはさみ今回で第4回目を迎えることになりました。大学法人化に伴い新しい方向に向かう大学に、同窓会がどのように応えていくか、同窓会活動を変えていかねばならない」と挨拶がありました。引き続き、伊藤学長から「60有余年の歴史のある大学の新しい方向性が決まり、生駒への移転がなくなり、この船橋の地で独自の教育システムを導入して、学生を育てることになりました。地域交流棟を手始めに、建物の整備が次々に行われていきます。大学や学部の名称が変わっても、世代を超えて同窓生がつながり、第4回ホームカミングデイを新設の建物で開催され、地域創造学部の若い卒業生が講演を行うことを喜ばしく思います」というご祝辞を頂きました。



司会が講演会のテーマと講師を紹介して、講演会に進みました。「『地域創造と学生』と題して、地域創造学部を卒業後に、異色な職業を選択された伊藤慎吾さんと九反田早希さんのお二人にお話し頂きます」。「伊藤さんは平成18年度に卒業されてから、「九州大学法科大学院」を経て「第68期司法修習生」として研修中で、弁護士を目指しておられます」。「九反田さんは平成19年度に卒業されてから、「東京大学大学院修士課程」修了後、「博士課程」に進学しましたが休学して「新日本アーンストン&ヤング税理士法人（現・EY税理士法人）」沖縄事務所に所属して活躍しておられます」。

伊藤さんの講演内容は、大学時代の過ごし方や友人関係、就職後に大学院へ進学して弁護士を目指した動機や将来の目標などでした。「元々、法学部志望で、1～2回生は大学へあまり登校せずにアルバイトに明け暮れ、学業に熱心ではありませんでしたが、3回生からは授業を真面目に受けて、単位取得に励みました。夜間大学の時期なので、2時から夜の9時まで下級生に交じって、ひたすら受講した経験があります。振り返ってみますと、当時の経験が自分自身の中核を形作ったと思います」。



「大学では個性的な友人に恵まれました。服飾関係、ホテル業界、公務員、女性の競艇選手、奈良で起業したなど多方面で活躍しています。先生や友人のお蔭で今日の自分がありますので、どのように地域に恩返しできるか、地域の一員として社会貢献したいと思いました。卒業後、西鉄ライオンズに入社しましたが、夏頃に早くも1年目の壁にぶつかり、このままでいいのかと疑問に思うようになり、大学院進学を決意しました。九州大学法科大学院に入学して、法律を専門に学んできた院生ばかりと一緒に授業を受けてきつくて心が折れそうになりました。1年目は基礎、2年目は実務、3年目はそれらの発展のカリキュラムで、事前に十分に学習しなければ、とてもついていけません。司法試験には2回失敗して、幸い昨年ようやく合格しました。修習を終えて、できれば弁護士活動を奈良市内で行いたいという希望を持っています。弁護士として、地域活動を行う住民を支えることが、自分としての地域創造ではないかと考えています」。

「学生生活で人間性を養う良い機会を得ましたので、将来的には友人たちと会社を立ち上げて、「リーガルサービス」を提供して、地域住民のバックアップをしたいと思っています。今の学生に対しては、目標を掲げて充実した学生生活を送ることを願っています」。

九反田さんの講演内容は、わが国でトップの大学院進学のために、卒業を延ばし5年間在籍して、最後の1年間は大学で受験勉強に専念したこと、先生や友人関係、大学院生活、税理士を目指した動機や将来の目標についてなど、女性の視点から語られ、興味深いものでした。「大学3年目に国際経済に関心を持ち、草野ゼミを選んで、指導を受けました。大学院進学について草野先生に相談した結果、東京大学か京都大学の大学院を目指すように勧められて、1年間の受験勉強に取り組みました。念願の東京大学大学院に入学したものの、授業についていけず悔しい思いをしましたが、必死に勉強して、さまざまな角度から経済を学ぶ貴重な経験をしました」。



「開発経済を学び途上国の貧困問題から、先進国でトップレベルの貧困率の日本の貧困問題に関心が移り、税金問題に取り組むうちに、税理士の資格取得を目指すようになりました。2年間の実務経験が必要でしたので、大学院を休学して、経験を積むことにしました。個人の税理士事務所では経験できないグローバルとローカルな経験をしたいので、現在の税理士法人の沖縄事務所に入社して勤務しています」。

「県立大学は小規模校のメリットとして、先生と近い距離にあり、研究室を訪問すれば、さまざまな相談に親切に対応して頂けることです。また、県大の仲間は個性的でお互いに刺激を受ける存在で、人生を語り合ったものでした。先生や友人たちに大きな影響を受けましたので、県大への思いが今も強いです。大学ではマイノリティだった自分の生き方が、後輩の女子学生の将来に、何か良い影響を与えられたらと願っています」。

「入学直後は授業についていけませんでした。戦略をしっかり立てれば、必ず結果を出せます。結果を出すことで、県大にお返ししたいと思っています。共著の『平等と効率の福祉革命—新しい女性の役割』では、女性の社会進出を扱って、岩波書店から出版しました。また、論文「相対的貧困と税・社会保障制度の再分配機能に関する国際比較研究」では、第37回日税研究賞（研究者の部）を受賞しました」。

「仕事と家庭の両立で困難を伴いますが、女性の社会進出について「戦略的に」を強調したいです。学生は4年間かけて戦略を練って欲しいです。とくに、国家資格を取ることが重要であり、役に立つと思います。地域創造は、女性の視点が重要です。税理士は、経営計画等を理解してサポートする役目を担いますが、既存の考えに捉われず、サポートしていきたいと思っています。「地域創造」で地域に新しい価値を見出す活動をしている、自分たちに続く講演の候補者がおりますので、このような講演会を広げていきたいと思っています」。

以上の内容で予定通りに12時に講演会が終了しました。その後、屋上見学をして若草山などの景色を堪能して、1階玄関前で全員の記念写真を撮影しました。

「大学生協ダイニングルーム」に移動して、13時からの予定でしたが、12時30分には集まりましたので、早目に懇親会を開始しました。東山さんの司会で、学生アルバイトの皆さんの紹介を行い、50回目の秋華祭の案内がありました。乾杯のご発声を、短大1期生の88歳の木村由一さんが元気に行われました。

来賓の伊藤孝治先生からは、「ホームカミングデイに毎回参加していますが、毎年、参加者が増えて喜ばしいと思います。今回の講演者のように、志を持って進む学生が多く出て、教育者としてよかったと感じています」とのお言葉を頂きました。大学の角田事務局長からは、「法人化と共に、長い歴史のある県立大学に赴任してきました。志を強く持つ若い卒業生の講演を心強く思い、感動しました。同窓会が在學生と交流を深められるように、皆さんの協力と共に大学も協力していきたいと思っています」と、今後も同窓会と連携して大学をよりよくしていきたいというお考えをお伺いしました。最後に、久保会長が「今後もこの活動を続けていきたいと思っていますので、本日の講演者、伊藤学長、大学事務局のご協力を感謝します。来年は総会を開催しますので、新規の活動提案や役員の応募をお願いします」と締めくくり、盛況のうちに、第4回ホームカミングデイが終了いたしました。ご参加頂きましたご来賓、大学関係者、卒業生の皆さまに、スタッフ一同、心より深く感謝いたします。

今回は、伊藤学長に講演者をご推薦して頂き、お二人の講演内容が好評で、ご配慮を有難うございました。新しい建物の放送機器の使用方法などで、大学総務課の有田さんにお世話になりました。また、在學生の皆さまには、司会や受付、駐車場案内、会場案内などでご協力頂き、お世話になりました。若い講演者のお二人は、大学の先生や仲間に恵まれて、感謝の気持ちを忘れずに、しっかりとご自分の信念に従って行動し、「地域創造学部」を創設した意味をよく理解

されて、地域への貢献をいつも考えておられます。このような頼もしい卒業生が増えることで、大学の価値も高まり、優秀な入学希望者が増えて、県立大学の発展が望まれると思います。

同窓会はホームカミングデイを継続することで、卒業生と在學生、大学とのつながりをなお一層深めたいと思いますので、今後ともよろしく願い申し上げます。来年は総会を開催します。多くの同窓生の皆さまのご出席をお願いいたします。



平成27年11月8日の日曜日、第50回秋華祭が始まりました。今年のテーマは「50 50全員集合50 秋華Paty!!」大学内を「不思議の国」にイメージして、様々な飾り付けを配し、ティーパーティーを楽しもうとの企画でした。が、あいにくのお天気のせいか準備不足のどたばたした状態で始まりました。

同窓会は、今回で3回目となりました、各模擬店で商品を購入した際に、100円につき、1ポイントの抽選券を配り、5ポイント集まると、1回抽選ができる抽選会を実施しました。



1等賞は、新米10本、2等賞は、奈良土産菓子20本、3等賞は、同窓会記念ボールペン50本、参加賞はポケットティッシュ、そして特に今回は、秋華祭50回記念とのことで、県大生限定で、特賞として商品券一万円分2本を、準備しました。

特賞のみ学生さんを特定しますので、抽選のあと番号カードを配布し、氏名と学籍番号等を記載してもらって別の抽選箱に入れておき、午後2時すぎに、大学祭実行委員会の人に抽選をしてもらい、当日のステージで当選者にお渡ししました。

当選者二人は、2回生の女子学生で商品券をことのほか喜んでおられました。

秋華祭は例年通り、図書館前にステージが設定され、様々なステージが繰り広げられてました。

シニアカレッジで学ばれておられる有志の方々には、皆で歌を歌いましょうと、英語の歌詞カードが配られ、皆さんで大学祭を楽しんでおられました。

午後1時半過ぎからは、船橋通り商店街の皆さんによる、恒例の「おもちつき」も実施されておりました。

昨年は、地域交流棟の建設もあり、学内の歩行に制限がありましたので、体育館は大学祭の通路として人の流れが分かりました。

今年は地域交流棟も完成し、地域交流棟の中で、ブローチやストラップを作る会場もありましたので、体育館への人の流れが少なく、抽選に来られる人も少なかった感じで、天候も悪く来場者も少なかったかもしれませんが、各店舗とも遅くまで販売を学生さんは若さあふれる元気さでがんばっていました。

特賞の景品案内も、応募者も64名にもなり、大学祭の催しの一部として幾分か貢献できたのではないかと思います。

体育館内では、例年通り、商店街のベーカリー藤田さんのパン販売や、平宗の柿の葉寿司販売、児童虐待防止啓蒙活動支援団体の掲示も実施されてました。

天候は悪かったのですが、午後3時過ぎからのお笑いステージは盛況だったようです。例年通り、吉本興業から「藤崎マーケット」と「8.6秒バズーカ」がステージを賑わして、観客席側の盛り上がりも、笑い声も体育館内にまで響いてきていました。

生憎の雨にもかかわらず、それでも楽しそうに張り切って大学祭を楽しむ現役学生や近隣大学の交流、地域の皆さんの姿は、毎年ほほえましくまぶしく楽しく眺めながら模擬店活動を行わせていただいています。



地域との交流を目的に開催されている大学祭に、機会がありましたら、同窓生の皆様も一度足を運んでいただいで昔を懐かしんで楽しんでいただければと思います。

## 2016年同窓年会年間スケジュール

本年度2016年は同窓会総会の年に当たります。詳細な日時は予定が決まり次第、同窓会HP掲載告知、総会案内は葉書でお知らせします。一人でも多くの会員の皆様のご参加を心からお待ちしています。

4月：入学式

5月：事業部ボランティア活動（毎年佐保川清掃活動に参加、今年度も予定。）

10月：総会（総会開催年度はホームカミングデイなし）

11月：大学祭「秋華祭」模擬店参加支援

3月：卒業式 同窓会会報発行 他・・・

奈良県立大学のすぐ裏手、毎年恒例の佐保川清掃が行われました。今年で56回目の行事となり、佐保川清掃は「蛍の住める清流の小川に」を目標にはじめられました。その間に河川整備も進み、地域の憩いの場として、毎年川沿いは見事な桜の咲く名所にもなっています。今年も同窓会役員から数名この清掃ボランティアに参加しました。



朝の8時前から地元消防局や地域の幼稚園、あるいは親子連れなど大勢の方がお越しになられておられ

ました。「安全に気をつけて」との主宰者の説明の後、各々手鎌や軍手など道具を手にとって川沿いに繰り出し、生い茂った雑草を刈っていきます。お天気が良かったこともあり、小さなお子さんがゴミや草を楽しそうに集めながら水辺ではしゃぐ姿は、とてもほほえましい光景です。しばらくすると見る間に雑草がトラックに山積み。「蛍がほんとに見れ

る日が来るのかしら？」と参加した仲間と雑談しながら、朝早くの清々しい空気と綺麗になっていく川沿いの様子は、蛍の棲む綺麗な清流になる期待をさせてくれます。

この活動は毎年5月の第三日曜の朝に行われております。ボランティア活動の告知はWebページでも告知をしておりますので、是非！OBOGの皆さまのご参加もお待ちしております。

## ◆『同窓会サポーター』を募集します！◆

●同窓会では「同窓会サポーター」を募集します。イベントや活動時の一日だけ簡単な作業などのお手伝いをしていただける方を募集し「同窓会サポーター」として登録します。その一日だけの簡単な作業等のお手伝いをしていただける方を募集します。(活動仕事内容によっては些少の謝礼も有ります。) OBOGだけでなく、現役学生の方にも登録可能です。皆様のご参加をお待ちしています。

▽詳細は 事務局連絡先 直接役員、又はEメール [npu\\_dousoukai@yahoo.co.jp](mailto:npu_dousoukai@yahoo.co.jp) までご連絡ください。

## 同窓会事務局からのお知らせ

### ●同期会やゼミ会のご報告を募集しています。

懐かしい友との再会のご寄稿お待ちしております。

またゼミ会同期会などの日時のお知らせも会報(年一回3月発行)では受け付けています。会員の皆様の交流の場としてご利用下さい。

### ●同窓会では役員募集をしています。

同窓会活動の各種事業を一緒に企画・お手伝い頂ける方の参加をお待ちしています。(在生も歓迎)

▽連絡先はこちら：直接役員へ、又は同窓会事務局Eメール

[npu\\_dousoukai@yahoo.co.jp](mailto:npu_dousoukai@yahoo.co.jp) までご連絡ください。

●広報部は会報記事をご寄稿をしていただける方を募集しています。OBOGの方々のご活躍の様子など情報をお寄せいただくと広報部が取材に伺います。→

Webサイト『奈良県立大学同窓会』で検索。

<http://奈良県立大学同窓会.jp>

## 編集後記

新しい建物である「地域交流棟」の屋上の景観は天気も良く若草山が良く見え、ホームカミングデイにお越しいただいたOBOGの皆さまに好評をいただきました。今後も奈良の伝統行事が眺められるかもしれないと思うと、大学へたびたび足を運びたいことと思います。そのような大学側や同窓会参加が行える情報ツールとして、Webページ告知だけでなくメールマガジンやSNS(Facebook予定)でこれら情報提供のため、現在準備中です。今年度には試験的にネットツールの導入をできるように広報部では情報発信の活発な交流起点になるよう努力したいと思います。何か具体的な案件等、どのような内容でも結構です。ご意見・ご感想をお寄せいただくと幸いです。

広報部Eメール：[kouhoubu@npudousoukai.verse.jp](mailto:kouhoubu@npudousoukai.verse.jp) まで、是非、ご情報をお寄せ下さい。